

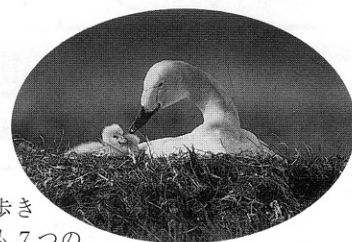
# Handsome

発行人 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 松本 啓 編集責任者 柴谷 政司 印刷所 東京印刷(株)

## コハクチョウを追いかけて

— ロシア コハクチョウ撮影記 —

### 地域ビジョン委員会 目次 俊夫



北緯69度32分、東経160度43分

私達、日本人スタッフ5名と、ロシア人スタッフ4名が目指したのはシベリア。

コハクチョウの故郷ツンドラの大地。

私にとってシベリア

は今回で2度目。今回は夢みなと博に際して米子館で上映されるコハクチョウを中心とした映像を撮影することが目的でした。

私は幸いにもコハクチョウの孵化と子育てにまた再び出会い、記録することに恵まれました。

7月1日に新潟を出発した私達は、ハバロフスクからヤクーツクそしてチェルスキーへ、その道中は600キロからの撮影機材との格闘にも似た移動に明け暮れ、ロシア美人に心奪われつつもペレストロイカ後の自由化の波が押し寄せるロシアを一路シベリアへと向かいました。

7月9日チェルスキーに到着、新たにコックとボーイ係、自然保護区の係員らが合流し総勢13名でヘリに乗り込みコハクチョウの繁殖ポイントに向かいました。燃料や食料を加えると約1トン近くに増えた荷物と共に。

チェルスキーから西へ約100キロの地点にキャンプを張りここで18日間テント生活をしながらコハクチョウの様子を撮影しました。5～6キロ北は流氷が漂う北極海です。このツンドラの大地は50センチもその地中を掘ると黒く固い氷の層にぶつかります。

この時期シベリアは、夏とはいえ至る所に雪が残る、強い北風が吹き荒れています。平均気温は5度ですが午前中28度もあったかと思うと夕方は0度前後と温度差が激しく、夜は雪が降り一面白く染める事も何度かあり、雨が降れば川の水がテントのすぐそばまで来るといった状況でした。

そしてまた、風がやんだ際に現れる蚊の大群とも戦いながらの作業でした。

蚊は並大抵の量ではなく、風下には蚊柱ができ、Gパンの上からでも容赦なく刺してきます。撮影の間ふと体を休めると、まさに気の狂うようなかゆさが襲い、その上夜ともなれば、寝袋の中で体温の上昇と共に至る所のかゆさがぶり返して寝付かれない有り様です。

コハクチョウが巣を作るこのツンドラは、川や池、沼だらけの湿地帯で目標の場所へ行くにも池や沼に遮られ迂回を繰り返す、かなりの距離を歩かなければなりません。そして乾いていると思えば腰を下ろせば水がしみ出、また歩き出せば長靴がはまり倒れることもしばしばでした。



このような状況の中とにかく歩き回ることに数日、私達は幸いにも7つのコハクチョウの巣を発見する事ができました。

そして、この7つの巣の観察、検討の末、その内の一つにブラインド用のテントを張り、中にムービーカメラを設置することにしました。

しかしここからが大変です。突然に現れたブラインドにコハクチョウがなれて警戒しなくなるまでとにかくじっと待つ日が何日か続きます。そして慣れたのを見計らい少しずつブラインドを近づけながらの撮影です。卵を抱えている為、あまり刺激を与え巣から親が離れると、卵が冷えたりトウゾクカモメに襲われてしまいます。

根気比べの撮影が続きましたが、その甲斐あって巣の4個の卵は全て無事孵化し、かわいらしい雛の様子が撮影できました。

ツンドラの大地の強い風に灰色の羽毛をなびかせ元気な姿を見せてくれた雛達は、この荒涼たる地にも間違いなく生命の力と自然の素晴らしさがあることを語りかけていたように思います。

4羽の雛の誕生は撮影隊全員のこの上ない喜びとなり厳しい自然の中で遭遇することができた生命の誕生にその日はとにかく乾杯の嵐でした。

雛が誕生してわずか2日間の間でしたが4羽の雛とその家族はファインダーの向こうに素晴らしい世界を見せてくれました。

またこの時期のシベリアは白夜で、太陽は真夜中の12時になっても地平線ぎりぎりを横に滑り、沈むことはなく、米子でいうと冬の4時頃の明るさが続きます。

白夜といえど何となくロマンチックですが、その撮影は30秒毎に一コマずつ一晩中です。おそらく皆さんがご覧になるときは20秒から30秒ぐらいでしょう



トライすること4回、やっと撮影することができその時も太陽と雲の協力に乾杯でした。

とにかくそんな調子ですから時間の感覚はなくなるし、へとへとになるまで歩き回し、楽しみといえばコックの作ってくれる食事。会話がすぐ食べ物のことになっていることがしばしばです。

食事の中心はトナカイの肉と毎日取ってくるチールと言う川魚。この魚はコイと鮎の中間のような感じの白身の魚ですが焼いて食べたときの味は絶品です。取れたり取れなかったりの粗末で単純な食事ですが、日本のような有り余る食材の中の食事とは違い、少し食べることも意味も考えさせられたりします。

もう一つの楽しみがラジオです。日本の短波が時折入ってきました。折しもオリンピックの期間中。オリンピックとは全くかけ離れた地で、毎夜8時ぐらいから日本人スタッフがじっとラジオに耳を傾ける様子をロシアのスタッフはおかしく思ったようです。

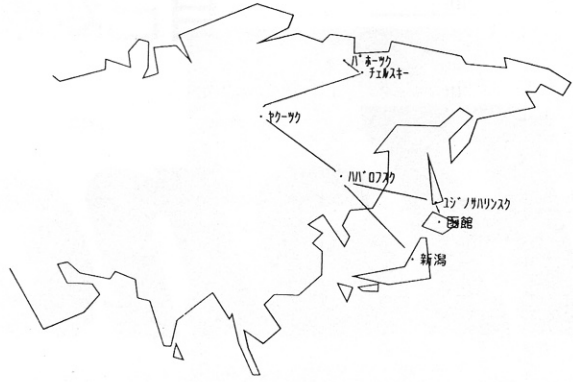
そして、ロシアのスタッフとも片言の会話ができるようになった7月26日、7つ巣の白鳥は達は姿を消し、むかえのヘリがやってきました。

荒涼としたツンドラの大地で、ファインダーの中にいたあのコハクチョウの親子が多くのことを私達に語りかけていたような気がします。

あれから2ヶ月、あの雛達も今頃は幼鳥となって、日本に向かい、遥か5000キロの旅の途中でしょう。

もうすぐこの米子に、私達に元気な姿を見せてくれることでしょう。

もうすぐです。



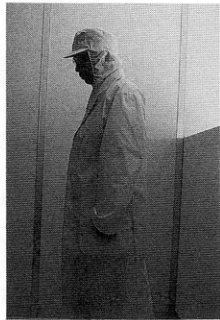
\*\*\*\*\*

# 中国・大連訪問記

情報メディア委員会 谷口 勉

「この人は誰でしょう？」

今、青年中央会で一番元気がいいのはといわれれば、情報メディア委員会を推薦されるヒトが多いのでは？これは、少しオーバーですが実は、この写真のヒトは何を隠そうタニグチです。



この度、商用で8月16日（金）～8月29日（火）の12日間中国の大連市へ帰国して、いや出張してきました。今年度は、1月4日から半月ほど滞在して以来ということになります。真夏でしたが湿度もなく日本より涼しく感じました。弊社（株）さんれいフーズの当事業部がまた私が何をしているのかを少し話しておきます。私の居る安来には、調理冷凍食品工場が2か所と境港に水産冷凍食品工場が1か所あり、この3工場て製品化する為の半製品加工を韓国、中国にて行っています。

この製品化にあたり、海外での技術、品質管理指導が主で、私は製品の開発から販売までの全てにあたっております関係上、大連へ出張する事もあるのです。私は、ニーハオ シェーシェー ライライ の3つの単語しか分からないので夜の会話は、いつも横に通訳を置いて“今夜時間あいてる？”とか何か訳の分からないことばかり。前回もそうだったんですが、毎朝美しい声でアポ取りのモーニングコールがあります。しかし、3つの単語しか分からない私は、最初は日本語で外人張りで“わからねー”を連発していましたが、そのうち“ライライ”に変わっていました。その後は、想像に！

食事は、毎晩どこかの3つ星以上のホテルで食べていたのですが、さすがに中華一本となると5日目くらいで堪忍してとなります。特に昼食は、とある水産会社の食事のおねえさんが毎日作ってくれるんですが、

またこれが強烈で、なつかしいアルマイトのパケツにばさばさのご飯の上になんにくの芽をたっぷりとかけ、それに中国スープがかけである、いわゆるエサです。



現場に行くと思所が汚いので朝は、どうしてもホテルで用を足していかねばなりません。どこの便所もそうですが、大は外からは丸見えで見える人がいないからでしょうが、根っからスケベの私、どうしても目がいってしまいます。ところで大連だけではないようで、夜になるとどこにこんなに大勢の人がいたのだらうかとゾロゾロと出てくる。中山広場は、真冬でも音楽に合わせ踊りを踊っています。町の随所では気功の稽古風景が点々と、夜することがないようで、夜中2時迄続くそうです。私達も夜することないから金払ってダンスホールに每晚通いました。そのうち私達が店に入ると、おねえさんが押し寄せて来るようになり困った思いをしました。今回の訪中は、仕事ばかりで観光がほとんど出来なかったが、8月25日の日曜日の午後に時間がとれ開発区とローコタンにタクシーをとばした位のものでした。たまたま8月の最終の日曜日の海水浴客が多く、日本とあまり変わらない風情を感じました。ただ海水浴場の入場料は、外国人は5倍というところが違う位。



今回の訪中の中、当委員会の8月委員会が開催され副委員長をはじめ各委員の方には大変お世話になりました。また機会があったら書面以外の話もしたいと思いますのでミナサン声をかけてください。

# 9月例会報告

(担当 経営委員会)



去る9月18日（水）、9月例会が森県会長、水谷中部会長の列席のもと、「ホテルわこう」において開催された。松本会長、森県会長の挨拶の後、金山、原田新会員両名のバッチ授与式、自己紹介が行われ、引き続き講演に入った。

54年度県会長の鶴田OBの末弟であられる鶴田和彦税理士を講師に迎え、「事業継承と経営」というテーマでご講演いただいた。

我々青年中央会会員諸氏にとっては重大な関心事の一つであると思われる「事業継承」に付いて鶴田氏は相続税対策という観点から切り込まれ、税務上の具体的な方策にふれながらも「相続対策の長期的計画の必要性」と、スムーズな「相続」を行うためには「後継者としての自覚をもって前向きに仕事に取り組むことが大切である」という面を強調された。続いて鶴田

氏オリジナルの「同族会社通信簿」なる採点表を用いた後継の判定評価の紹介、その後来年実施が予想される消費税改正とその対応について、改正の背景と将来的な展望を述べられ、改正のポイントについても示唆いただいた。

今回は相続税対策、消費税改正という非常にリアルな内容であったが故に、財布のひもをひきしめる……ではなく、身のひきしまる思いで講演を拝聴した。頭の中に浮かんできた言葉は「備えあれば憂いなし」。

# 9月度委員会報告

## 政治・行政委員会

平成8年9月6日(金) 於：米子食品会館 出席者/11名  
講師/阿部信行直前会長  
演題/広域合併について

講師に阿部直前会長を招いて「広域合併」についてご講演を戴いた。  
その中で「どうする山陰」シンポジウムの開催を機に中央会として広域合併について取り組んだいきさつ等詳しく説明・講演を戴いた。  
その後、会員相互で活発な意見が取り交わされ、次回の委員会で今後どの様に委員会として取り組んでいくかを検討する事にし閉会した。

## 地域ビジョン委員会

平成8年9月13日(金) 於：米子食品会館 出席者/11名  
講師/山陰・夢みなと博覧会協会 催事部催事制作課長 奈良井稔氏  
催事管理課長補佐 中山佳久氏

内容/山陰・夢みなと博覧会の概要を説明して頂く。又、催事部の計画しているイベントの概要、並びに催事部が基本的に企画しているイベントのあり方等を詳細に説明して頂き、中央会としての取り組み方等を積極的にディスカッションする。

## 経済委員会

平成8年9月12日(木) 於：米子食品会館 出席者/12名  
講師/(財)米子崎津地区開発促進公社 常務理事兼事務局長 清間勉氏  
演題/米子崎津地区開発問題について

今回は米子市の課題である崎津工業団地の開発について伺った。先ず清間氏は現在の予定では工業団地、宅地、ゴルフ場となっているが、この景気ではゴルフ場に転用しても利用率の低下でますます借入金が増えそうなので滞っている。又、一部に報道されているJRA(日本中央競馬界)の場外馬券売場へ転用も利用面積が少なく、また地元の反対もありかなり困難な状態である。年間利息だけで1億円以上が米子市より支払われている状況であり何か良い代案でも有ればよいのだがとの事であった。いずれにしても米子市にとってあれだけの広い面積の土地は他になく早急に結論を出す時期に来ている。中央会でも何か良い案があればお願いしたいとの事であった。

## 経営委員会

平成8年9月12日(木) 於：米子食品会館 出席者/13名  
内容/今回は、9月担当例会の打ち合わせを中心議題に委員会を行った。司会進行、受付等、各部署への配置の他、スムーズな会の運営、覇気のある司会、前の席より会員の方につめて頂くこと等を確認した。

その後、落合、中ノ森会員による3分間スピーチを伺った。今回両氏はその専門的な立場からのお話であった。

最後に、10月レクリエーション委員会の説明を行い、そして9月例会の成功を期して氣勢を上げ、閉会となった。

## 情報メディア委員会

平成8年9月11日(水) 於：(株)さんれいフーズ本社 出席者/11名  
内容/今月より本格的委員会活動にはいる。

先ず、「11月の担当例会」について、委員長案の提示。それについて討議……演題が固い、講師先生の性格を考えれば、演題に含みをもたせればいいのでは等意見が出る。

講師については、異論なし。

「夢みなと博」のチケット配布。

その後、パソコンの勉強会。3台のパソコン、3名の講師で、ロータス「123」とロータスを一段レベルアップした「データネイチャー」の使い方について講習を受ける。

不慣れな手つきで、実際にキーボードを叩き、マウスをクリックし、…勉強になりました。

## 指導能力開発委員会

平成8年9月19日(木) 於：米子食品会館 出席者/12名  
講師/(株)ケイズ 代表取締役 松本啓氏

内容/講師に当会会長松本啓氏をお呼びして(株)ケイズ及び松本油店の変遷、そして各々のかかえる問題を提示していただいた。会長本人も初代創立者ではなく、後継者の持つ悩みや、逆に若きバイタリティーを発揮できる場の喜びをおもしろおかしく語っていただけたと思う。

委員会全員が経営者である為、真剣な質問に興味の深さが感じられ、良い機会を得られたことを感謝しております。

## 社会・文化委員会

平成8年9月27日(金) 於：大連 出席者/10名  
内容/1. 10月委員会の担当講師先生の人選

2. 松茸料理を囲み、四役及び各委員を招き、色々な経験談などを聞きながら親睦を図る。

## 総務委員会

平成8年9月12日(木) 於：米子食品会館 出席者/15名  
内容/1. 新入会員オリエンテーションについて参加者の感想

2. 親睦ボウリング大会の打ち合わせ(9月24日開催)

3. OB交流会の打ち合わせ

4. 来月委員会の打ち合わせ

## 広報委員会

平成8年9月6日(金) 於：サンメディア 出席者/13名  
内容/1. 「ハンサム10月号」編集について

9月24日原稿締切、26日編集会議。

2. 中央会ホームページについて

インターネット体験

## 委員会対抗 ボウリング大会 途中経過

### チーム成績(人数点含む)

1. 社会文化委員会	5,431(2回)
2. 政治行政委員会	5,375(2回)
3. 地域ビジョン委員会	5,142(2回)
4. 総務委員会	2,616(1回)
5. 広報委員会	2,604(1回)
6. 情報メディア委員会	2,584(1回)
7. 経営委員会	2,433(1回)
8. 経済委員会	2,399(1回)
9. 指導能力開発委員会	2,377(1回)

### 個人成績

1. 和田 健二	361
2. 高田 孝志	348
3. 音田 猛	334
4. 高橋 洋志	332
5. 浜田 一哉	325
6. 多賀 彰穂	320
7. 佐久間 信	319
8. 野嶋 功	317
9. 柴野 清	315
10. 久古 雅彦	313

## 新入会員紹介

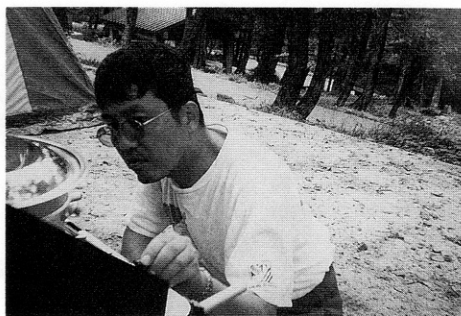
# Challenge

## 大山の夜は寒かった 「キャンプ入門」

今、世の中はアウトドアブームである。猫もじゃくしもアウトドアである。書店に行けばオートキャンプ、カヌー、トレッキング……等の本がともかく数多く並んでいる。

そもそも私がオートキャンプに興味を持ったのは今から約4年前、夏の終わりのレジャー用品大バーゲンで6人用のテントがあまりに安かったので衝動買い、それからコツコツと道具だけは揃え、毎月専門誌も立ち読みし、それなりの準備は出来たけれど、なかなかキャンプに行けない。やったことと言えば、テント購入後すぐに家の庭で一夜だけテントを張って泊まって見たが夜中に大雨、強風が吹き荒れ、午前3時頃に緊急避難。その時にテントのポールが風で曲がり、未だに我が家のテントは1ヶ所屋根が曲がったままである。まあ前置きはこれ位にして……

今回も7月の終わり頃から今年こそはキャンプに行こうと思ひ色々計画を立てて見たけれど米子から3時間以内で行かれるオートキャンプ場は10月未だ土、日、祝日は全て予約でいっぱい。それならもうどこでもいいと思い、9月15、16日に大山平原ゴルフ場の近くの河原に決定し、当日朝8時に愛車に私(39才)妻(37才)子供(小5年生女の子)の家族全員3名と、テント、テーブル、2日分の食料が詰まったともかく大きなクーラーボックス、2バーナーコンロ、寝ぶくろ、その他もろもろ、後方視界ゼロの状態までつみこんで、いざ出発! 8時30分、小林の河原に到着、まわりを見るとあまりに寂しそうだ。夜になるとどんなに寂しいだろうか、へびも出そうだし、家族会議、答えはすぐに出た、「場所変更」(嫁も子供も未だに夜中に1人でトイレに行けない)昨夜、広報委員長に「だれもない所で初めてのオートキャンプをしていい記事を書きます」と言った手前、困ったなと思ひながらも車は大山



寺の下山キャンプ場に到着。このキャンプ場は本来なら夏の間だけのキャンプ場であるが登山者の為、水道もトイレも1ヶ所だけ使用出来る様になっている。

オートキャンプとは本来テントのすぐ横に車を止めるのであるが、このキャンプ場はテントサイトへの車の乗り入れが出来ない為、キャンプ場の上の駐車場に車を止め、お父さんは汗まみれになりながら荷物運び、高低差のある道を行ったり来たりどうにか荷物も運びきり、テント設営、イメージトレーニングだけは十分に出来ていたが悪戦苦闘して30分位で完成、やはり設営が容易なドームテントの方がよかったと思ひながらも出来上がったロッジ型テントに満足、テントサイトに、テーブル、椅子、コンロ等を並べて見るとアウトドアの雑誌の写真と同じ様な感じである。

日中は大山寺の河原で遊んだり、元谷の近くまでハイキングしたり、夜になって下界を見ると米子の夜景はきれいだし、上を見ると満天の星空、天体望遠鏡を出し、ほとんど、うその星座の勉強会、子供はお父さんの言うことを信じていた様であったが……

今回のキャンプを通じて失敗は夜中の寒さを甘く考えていたことである。本当に寒いのである。寝ぶくろと毛布だけではだめである。寒さ対策を十分に準備して行けば、もっと楽しいキャンプが出来ると思う。それと夜は本当に静かで、20m離れたとなりのアベック、君達のアノ声はよく聞こえたぞ!

最後に委員長、さし入れありがとうございました。

(広報・安藤)

### 10月例会案内

とき 10月21日(月) 午後6時30分～  
ところ 米子国際ホテル  
演題 中海圏の広域発展をめざして  
講師 鳥根大学学長 北川泉氏  
担当 政治・行政委員会  
※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

### 10月役員会報告

10月定例役員会が10月1日(火)、米子食品会館に於いて開催された。

当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 10、11月例会開催の件
- (2) OB交流会実施の件
- (3) その他

※尚、詳細については、各委員長までご照会下さい。

### 編集後記

大山は我が郷土の誇りである。色付いた大山を眺めると何とも言えない気持ちになる。すすきの穂が風に揺れ、木の葉が色付き始めると、そろそろ鍋と焚き火の季節である。アウトドアでも、焚き火が心地良い。火を囲むと浮世のストレスも忘れ、なんだか心穏やかで済む。囲炉裏の火と鍋。日本の原風景に通ずるからか。

先日、台風17号が。深刻な爪痕を残して去って行った。毎年必ずこの様な災害が日本を襲う。しかし、我が県西部は平和そのものである。これも大山のお陰である。合掌。

## 聞いてごしない Part 10

秋、とかく世間では食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋と囃したてる。食欲の秋といえば、食べることに限っては少々自信がある。まず好き嫌いが無い。何でも食べる。おまけに出た物は残さず全て食べる。特に肉には目がなく、意地汚く子供の物まで食べてしまう。この夏話題になったO157も私の敵ではない。だが、さすがに鈴虫の音を聞くこの頃は胃袋も落ち着き、焼き魚、焼きナスなどアッサリとしたものを好んで食べている。が、「歳を取ると口が変わるのよ」という妻の一言はキツかった。

読書の秋といえば、今年こそはと長編小説を購入し挑戦してみたが、早々と野球観戦の枕になってしまった。情けない。そういえばこの前読んだ本に、中年になるにつれ持続力が落ちると書いてあった。

そして、スポーツの秋である10月10日を前にして、どこもかしこも運動会などスポーツイベントがめじろ押しである。ダブついた体を持って余している私としては、どうしても運動会よりスポーツジムに目が行く。ストレッチ、バイク、各種器具を使うトレーニングを、優しいインストラクターのお嬢さんが手ほどきしてくれる。一通りメニューを消化した後は、汗が顔面からしたり落ちる。最後にヘルスメーターに乗りニッコリと終われば最高である。しかし、現実はそのようなことはない。ジムから帰るとビールはガブ飲み、食欲は倍増とトレーニングの意味がちまちまなくなる。おまけに翌日は体中の節々が痛くなり、体力の衰えを感じながらジムから足が遠のく。

こうして考えてみると寂しい話だが、私の体が秋にさしかかっているような気がする。ここはそんな不安を吹き飛ばすために、仕事が終わったら朝日町に直行し、国際交流にでも花を咲かせたい。私の場合はさしずめ「快樂の秋」といったところであろうか?

そう言えば話は横道にそれるが、県会長によると今年から青年中央会の海外研修が再開されるらしい。今年はタイだそう……。 (パロパロ)